

巻頭言



## 健康寿命の延伸と補綴治療

Extension of healthy life expectancy and prosthodontic treatment

日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座 志賀 博

日本の総人口は2008年にピーク(12,808万人)となり、2011年以降減少を続け、2017年の調査では12,671万人となっております。一方、65歳以上の高齢者人口は増加し続け、2008年には2,819万人でしたが、2013年に3,190万人となり総人口の25%を超え、2017年の調査では3,514万人で27.7%となっております。2008年からの約10年間で、総人口が137万人減少したのに対し、高齢者人口が695万人増加しており、これまで以上に急速に少子高齢化が進んでいます。少子高齢化の一因に平均寿命の延伸がありますが、平均寿命と介護を必要とせず自立して生存できる健康寿命との差が大きいことから、健康寿命を延ばし、要介護期間を短くすることに関心が集まるようになり、最近では健康寿命の延伸のCMがTVでもみられるようになってきています。厚生労働省では健康日本21(第1次:2000年度~2012年度,第2次:2013年度~2022年度)を掲げ、健康寿命の延伸を推進させています。第1次では平均寿命の伸びに健康寿命の伸びが追い付けていませんでしたが、最近の6年間では、健康寿命の伸びが平均寿命の伸びよりも大きくなり、その効果が表れ始めています。健康日本21の第2次では、目標として「健全な口腔機能を生涯にわたり維持することができるよう、疾病予防の観点から、歯周病予防、う蝕予防及び歯の喪失防止に加え、口腔機能の維持及び向上等について設定する。」としています。

加齢に伴い身体機能が低下しますが、この状態を日本老年医学会は、健康寿命の範囲内で要介護状態の前段階にあるとし、「フレイル」と定義しています。この「フレイル」には老い、衰えるというイメージが強

いですが、適切な介入により回復することが含まれており、「フレイルに陥った高齢者を早期に発見し、適切な介入をすることにより、生活機能の維持・向上を図ることが期待される」と提言されています<sup>1)</sup>。歯科においては、口腔機能の低下を評価し、適切な介入による回復、維持・向上を図ることになるかと思えます。

平成30年度診療報酬改定の概要<sup>2)</sup>中の歯科治療の将来予想において、人口構成の変化や歯科疾患罹患状況の変化に伴い、「歯の形態の回復」を主体としたこれまでの「治療中心型」の歯科治療だけでなく、全身的な疾患の状況などもふまえ、関係者と連携しつつ患者個人の状態に応じた口腔機能の維持・回復(獲得)を目指す「治療・管理・連携型」の歯科治療の必要性が増すと予想される。と解説されています。平成30年4月から口腔機能管理加算が保険導入されましたが、口腔機能の低下を評価し、適切な介入による口腔機能の回復が必要といえます。口腔機能の回復のための介入には、注意喚起や口腔衛生指導にとどまらず、歯科治療、特に補綴歯科治療が関与することは間違いなく、今、まさに求められ始めていると思えます。

市川理事長は、「口腔衛生管理、歯列管理、口腔機能管理をトータル的に考えられるのは補綴であり、少子高齢化になればなるほど、会員は誇りと責任を持って自らの臨床技術向上と学術を発展・深化して、国民の健康の向上に還元しなければならない。その環境作りをするのが学会であり、そのための学術大会企画と学術誌発行、情報発信を行いたい。」と述べられ、口腔の形態と機能の最終責任を持つのは補綴であり、われわれであるという信念から発した言葉として「補綴の矜持」を示されています<sup>3)</sup>。CAD/CAMや光学印象

などの新技術を習得・活用されるのはもちろんですが、口腔機能の維持・回復を目指す「治療・管理・連携型」の歯科治療に最も関わるのは、われわれであることを再認識し、補綴歯科医療に従事すべきであるといえます。また、市川理事長の「会員のための環境作りをするのが学会である」との考えの下、各理事がその実現に向けて鋭意努力しておりますので、これまで同様、ご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 文 献

- 1) 大内尉義, 荒井秀典. フレイルに関する日本老年医学会からのステートメント, <[https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20140513\\_01\\_01.pdf](https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20140513_01_01.pdf)>; 2014 [accessed 18.06.25].
- 2) 厚生労働省保険局医療課. 平成 30 年度診療報酬改定の概要 ( 歯 科 ), <<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000203141.pdf>>; 2018 [accessed 18.06.25].
- 3) 市川哲雄. 歯科の基盤を支え, 創る補綴の矜持—理事長就任にあたって—. 日補綴会誌 2017; 9: 159-162.